



第1会場 ● 2F 第4研修室

■司 会／廣瀬 友治 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事
神河 武彦 福岡県教育庁北九州教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方 10:45~10:50

1 大人としゃべり場 10:50~11:20
～トークフォークダンスで語ろう～

戸島 教明(福岡県直方市) 直方第一中学校 PTA会長
宮園祐美子(福岡県直方市) 直方第一中学校 PTA副会長
宇野 紀子(福岡県直方市) 直方第一中学校 元PTA副会長(のおがた未来カフェ)
花田 義朗(福岡県直方市) 直方第一中学校 教頭

包容力のある大人が、中学生の意見や考えを肯定的に聞くことで、生徒達に自己有用感や自己肯定感を身につけさせることができる。市民グループ「のおがた未来カフェ」の協力によりPTAの行事として開催している。フォークダンスのように次々と相手を変えながら、子どもと大人が1対1で、日常の様々なテーマについて語り合う取組で、今年9月で6回目になる。毎回体育館に200名以上の大人が集まり、保護者だけでなく、ネットを通じて九州圏内だけでなく関東からの参加もある。「反抗期の子どもだから、話にくいのかと思いましたが、全くそんな感じではなく素直で可愛らしいなと思いました。」という大人の感想があった。

2 地元農家の主婦力による「農家れすとらん つつじ亭」の開業とその知恵 11:25~11:55

守永 和子(山口県萩市明木) (有)農家れすとらん つつじ亭/明木(あきらぎ)手芸を楽しむ会 代表

平成16年4月、常設の農産物加工販売所「つつじ」の開業にあたり、地元の主婦たちが農産物の販売だけでは物足りないと考え、手芸品販売のほか、郷土料理の紹介や販売活動の実績をもとに有限会社を設立、「つつじ」内のテナントとして「農家れすとらん つつじ亭」を開業。この山間地には楽しい宝があることに気づき、かずらのかご、草木染め、木工細工、子ども達とのカカシづくりと違った形、方向で成果を出している。また、地場産品を生かした食の開発に取り組み、山口食彩店として登録されている。

3 地域住民力の活用実例がここにある! 12:00~12:30
～おせっかいおばちゃんたちと行政のおいしい関係～

安永 友紀(長崎県川棚町) 川棚町健康推進課健康増進班 係長

おばちゃんパワーを中心とした地域住民力を活かした地域活性化の事例である。行政地域へ情報を発信し、目的を共有することでそれぞれの役割を確認。住民が主役となるような仕掛けづくりや活動の場を提供している。まさにおせっかいおばさまたちと行政のおいしい関係の構築である。数々の取り組みの中でも、自閉症や発達障害啓発イベント「ブルーライトinかわたな」や世界エイズデー啓発イベント「赤を身に着けて集まろう! レッドリボンデー」などは、おばちゃんパワーが光ったイベントである。地域住民が自ら発信することで、町全体がイベントのもつ意味を知り、知識や理解を深める機会となる。そこには、自然と地域住民がもたらす主体性が生まれ、さらに、人材育成へつながる喜びがある。